

[専門教育科目/看護研究]

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
看護研究Ⅱ	NSP45_001	NSP45_001	2	4	通年	
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー			
望月 宗一郎 他	302	s.mochizuki	指導教員より提示する。			
授業の目的・概要	<p>これまでの実習を通して体験した事例や探究したい課題に対して、「看護研究Ⅰ」で学修した研究方法論を展開しながら、研究的態度を養う。研究テーマの確定、先行研究の文献検討、研究計画書の作成という一連の流れを通して、研究の基礎的方法を学ぶとともに、看護専門職者としての資質を向上させる。</p> <p>文献クリティーク等はオンラインによるグループディスカッションを行い、看護研究計画を作成するまでの一連の流れについて理解を深める。この授業は同時双方向型授業で行う。</p>					
学習上の助言	<p>本科目には、3年次必修科目の「看護研究Ⅰ」をしっかりと復習した上で臨むこと。また、領域別実習や総合実習と密接に関わっており、連動させて学修していく。</p>					
教科書	看護における研究 第2版 / 編：南裕子 他 / 日本看護協会出版会 / 2017 (看護研究Ⅰで使用したもの)					
参考書	指導教員より適宜提示する。					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針			
①	看護研究の一連のプロセスを説明することができる。	HSU(2)、NS(1)				
②	自身の興味・関心に基づいて先行文献を調べることができる。	HSU(2)、NS(2)				
③	研究計画に必要な要素を含んだ計画書を作成することができる。	HSU(2)、NS(3)				
④	主体性を持って、計画的に取り組むことができる。	HSU(5)、NS(5)				
授 業 計 画						
学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間 (時間)			
<p>1 研究領域の決定</p> <p>研究領域は、学生の希望を踏まえ公平な方法で決定する。教員1人あたりの担当学生は最大4人とし、今年度各領域で受け入れる学生の最大人数は次のとおりである。</p> <p>基礎看護学 20人 (対応教員5人)</p> <p>成人看護学 12人 (対応教員3人)</p> <p>小児看護学 4人 (対応教員1人)</p> <p>母性看護学 8人 (対応教員2人)</p> <p>精神看護学 8人 (対応教員2人)</p> <p>老年看護学 8人 (対応教員2人)</p> <p>在宅・公衆衛生看護学 16人 (対応教員4人)</p>		同時双方向型授業	<p>・興味、関心のある分野の先行研究を自主的に調べること。</p> <p>・担当教員の指示に従い学習計画を立てること。</p> <p>・自ら進んで指導を受ける心構えで、主体的に担当教員にアポイントをとり、資料を整えた上で授業に臨むこと。</p>			計 30
<p>2 学習内容</p> <p>1) 文献検索・文献検討</p> <p>2) 文献カードの作成</p> <p>3) 研究テーマの検討</p> <p>4) 研究デザインの検討</p> <p>5) 緒言・方法・倫理的配慮の検討</p> <p>6) 研究の実施</p> <p>7) 領域別成果発表</p>			<p>・成果発表に向けて、リハーサルや当日の準備を学生主体で行うこと。</p>			
			0.5/回			

[専門教育科目/看護研究]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	40	10	50	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	50	0	50
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
レポート	①	✓	3枚以上8枚以内 (A4用紙40字×25行) 別に表紙(研究テーマ・学籍番号・学生氏名・指導教員名)をつけ、左上1箇所をホチキス止めし、担当教員に提出する。 提出期日：原則として10月末日				担当教員が評価し、必要に応じ学生にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
成果発表	①		領域別を実施する。指導教員の指示に従い資料を作成する。当日に向けた準備やリハーサルは、教員の指導のもと学生主体で行う。また、発表当日の進行も、学生が中心に進める。				成果発表の中で、教員から学生にコメントを伝える。
	②						
	③						
	④	✓					
ポートフォリオ	①		学習スケジュール・文献カード・配布資料をファイリングし、自己管理していく。これを用いて、評価のための最終面接を実施する。また、日々の学習態度、レポート作成への取り組み姿勢を含め、総合的に評価する。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④	✓					
その他	①						
	②						
	③						
	④						
備 考							
<p>担当教員：次に示す教員が学生の指導にあたる。また、教員の補助者として助手が指導する場合もある。</p> <p>◎望月宗一郎 (科目責任者) 小野寺幸子 (副責任者) 窪川理英 (副責任者)</p> <p>石野徳子 平尾眞智子 藤井充 山崎洋子 小林美雪 中溝道子 溝口孝美 森川三郎 山田真衣 佐野宏一朗 田中深雪 堀口まり子 渡邊美樹 伊丹幸子 久島萌 山崎さやか 吉岡睦世</p> <p>・本シラバスは一定の方針を示したものであり、詳細については領域の裁量に委ねられる。</p> <p>・レポート提出や成果発表の詳細等は指導教員の指示に従うこと。</p> <p>・自ら進んで指導を受ける心構えで臨み、計画的に進めること。</p> <p>・主体的に指導教員と連絡を取り、積極的な態度で臨むことを重んじる。</p> <p>・担当する教員は、看護職としての実務経験を活かしこの科目を教授する。</p> <p>・一部 Teams を使った同時双方向型授業を行うため、通信容量無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。</p> <p>・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって、シラバスの内容が一部変更となる可能性がある。</p>							